

元気おおとよ新聞

新年 あけまして おめでとうございます。

大豊のみな様には、昨年とはちがって穏やかにお正月を迎えられたことと思います。

本年も「NPO法人元気おおとよ」ならびに「元気おおとよ新聞」へのご支援やご鞭撻、そしてご愛読をどうかよろしく願います。

昨年は、コロナウイルス禍や新しいウイルスの発生が大きな関心を集めました。いずれは沈静化が図られると思いますが、何といたっても大きな心配事は、地球温暖化をはじめとする地球環境問題です。この新聞でも啓発的な呼び掛け記事を連載しましたが、以前と違い最近では毎日のようにメディアで取り上げられるようになりまし。国や関係機関もやっと重たい腰を持ち上げました。グレタさんに触発されて、若者を中心に脱炭素のうねりが方々で生まれました。

さて突然ですが、初春にちなんで、この問題についての私の夢のうちの1つを披露させていただきます。

それは、世界のすべての国の軍事費の3割、いや5割を地球環境対策費として拠出してもらうということです（宗教関係で対立している国は難しいかも知れませんが）。拠出に向けては、国の政府や政治家などに申し込んだり頼んだりするのではなく、国民や市民の運動として行い、拠出やむなしの状態に追い込む、という方法を取ります。北朝鮮などの国民もあらゆる手を使って巻き込みます。「カムカムエヴリバディ」です。

対策費は以下のことに使います。①現在、地球温暖化などで被害を受けていると思われる国や地域、人への援助を最優先させる。②この問題について研究している機関や団体への支援。

この活動を通して、世界から「戦争に金を使うなんてあほらしい」「政治家が煽り立てているばあで、誰っちゃん戦争なんかしようないぜよ」の声が上がったりしたらベリーグッド。

我が「NPO法人元気おおとよ」も、大好きな大豊の元気作りに向けて力いっぱい取り組みます。本年もどうかよろしく願います。

本年が皆様にとって

幸多い年でありますよう

心からお祈り申し上げます。



理事長 下村守正

そば物語～収穫＆ガレット試食編～

今回はそば物語～収穫＆ガレット試食編～イベント報告についてです。

11月14日の日曜日、佐賀山にある私たちのソバ畑に、朝9時ごろから続々と参加者が集まりました。この日の1週間前くらいから、天気がぐずぐずで寒い日が続いていましたが、当日は程よく日も出てポカポカした天気となりました。

今回は初参加の方がほとんどで、しかもおそらく、今までで一番の参加人数だったこともあり、交流の輪が広がりました。おかげであっという間に刈り終わりびっくりです。人がたくさんいるという喜びに浸りました。



程よく汗をかいた後は、みなさんお待ちかねのおおとよガレット試食会！

ソバ刈り中にガレットカーが登場し、ソバの香ばしい香りにお腹すいた！と大喜び！

理事長特製のそば汁やカリカリ梅、ワタナベファームさんのチーズとコーヒーに舌鼓。最後まで明るく楽しい雰囲気です。

この取り組みを続けていけるように、これからも頑張っていこうと思います。（中平 拓海）





2017年（平成29）8月設立

集落活動センター「絆の里・いわはら」は、会長、副会長は岩原・西峯三谷・筏木の各区長、事業部長などから構成される、「岩原地区活性化推進委員会」が主体となり、2017年8月に設立されました。今回は、下村芳章会長にお話しを伺ってきました。

環境整備事業

集落活動センター「絆の里・いわはら」の活動の一つは、岩原地域内の環境整備です。5～6名の精鋭チームにより、草刈りや側溝の清掃、支障木伐採など、地域住民からの要請に応じて「結」の精神でかけつけます。耕作放棄地だった棚田を整備し、ぜんまいの栽培（ゆとりファームへ出荷）やイベントの開催（灯りの里・むかいだ会主催）などもおこなっています。

集落活動センターが保有する草チップ・竹チップの機械を使い、伐採した小枝や竹をチップにして、肥料・飼料や土壌改良等に活用するなど、新しい取り組みも積極的に行われています。そのほかに2tコンボ・ユニックも保有していて、人力では不可能な作業も行えます。これらの重機類は、町内の他地区にも貸出（有料）可能だそうです。

▼左：シュレッダー1（木の枝チップ） 右：シュレッダー2（竹チップ）

実際に、元気おとよが行っている森林整備活動の際にも、コンボ&オペレーターに作業を依頼し、来てもらいました。重機と熟練の操作のおかげで、作業が格段にはかどり、休憩中には、山暮らしの知恵なども教えてもらって、よい交流にもなったと思います。

岩原の地域活動に忙しい中、本当にありがとうございました。この場をお借りして、作業してくださった方や手配をしてくださった方に深くお礼を申し上げます。



チーム「ほうずき」

集落活動センター「絆の里・いわはら」のもう一つの活動は、女性5名ほどが主体の地域で採れる食材を活かした加工食品の開発・製造・販売です。イタドリ・ワラビ・ゼンマイなどを使った「スタミナ漬け」は、来年中の販売を目指して準備を進めています。腐敗実験なども行い食品の取り扱いや衛生管理などもしっかりとされていて、完成したら大豊町の特産品として広く販売できそうです。

その後はヨモギや自家製野菜を使った「パン」も開発する予定だそうです。集落活動センター「あなない出愛のひろば」の店頭にも並ぶそうなので、楽しみにしています。また、社会福祉協議会と連携し、月1回のミニデイのサポートもされていて、地域の高齢者の皆さんとのふれあいも大切にされています。



地域資源の活用

環境整備と地域食材を活かした食品加工は、そのまま地域資源の活用として、交流人口や関係人口の創出にも役立ちます。2年前から高知市内の旅行会社と連携し、観光ツアーの受け入れを始めたそうです。

クロスフィット（東土居にて）やトレッキング等の体験、お堂の護摩焚きや神楽の見学等、お昼にはチーム「ほうずき」が地元食材を使ったお弁当を提供。環境整備事業と食品加工事業が目に見える成果として表れています。地域住民の暮らしのために始めたことが、地域活性化にもつながっていくという、理想的な形ではないでしょうか。

21年前、私が大豊町に来たばかりのころは（当時は大砂子在住）、岩原の方々にはとてもよくしていただきました。今でも、灯りの里イベント（岩原・むかいだ会主催）にはガレットを出店させていただいたり、消防団の出初式の時に声をかけていただいたり、住む地域（現在は川口在住）は違っても、交流させてもらっています。

大豊町は広くて、集落の特徴もそれぞれですが、だからこそできる連携もあるかもしれません。同じ大豊人としてこれからも絆を深めていきたいと思っています。（野田由美子）

